9-7		主題	第一歩を踏み出す勇氣	
QOLの向上		副題	～ドリームズ・カム・トゥループラン～	
研究期間	12ヶ月	事業所	特別養護老人ホーム 東四つ木ほほえみの里	
発表者：介護副主任 安田佳悦 工藤紀英		アドバイザー：介護主任 井口文男		
共同研究者：介護副主任 高野久美子 生活相談員 河南 真裕子 菊池えみ子				
電話	03-5698-2341	メール	kaigo@kyouseikai-hohoemi.jp	
FAX	03-5698-2349	URL	http://kyouseikai-hohoemi.jp/	

今回発表の事業所やサービスの紹介	<p>下町風情平成10年6月1日開設。13年目を迎えている。 4階建てで、2階～4階が生活フロア。各フロア35名～40名。 本入所115名、ショートスティ15名の計130名。 平均介護度 3.94 平均年齢 84.3歳 最高齢102歳 (平成22年7月6日現在)</p>
------------------	---

<p>《研究前の状況と課題》</p> <p>施設の利用者は限られた職員数と時間の中で生活をしており、在宅で生活されている方々に比べ利用者の生活が制限されている部分が多い。個々の外出の機会も少なく、天気の良い日に「こんな日は散歩に行きたいね」という利用者の声があっても充分に対応できない現状があった。また、今まで小人数で外出していた《小旅行》というものはあったが、利用者は職員が選んだ場所から行き先を選択する事しか出来なかった。</p> <p>ある時利用者より「故郷に帰りたい。」という声があがった。いつもは故郷に帰ることを非現実的な内容として捉え、その方の生まれ故郷の話をするなど回想をしたり傾聴したりする事しかできず、それが施設ケアの限界と思い込んでいた。</p> <p>「実際に故郷へ連れて行ってあげたい。」という職員の一言から、『ドリームズカムトゥループラン』という企画が誕生した。</p>
--

<p>《研究の目標と期待する成果》</p> <p>『ドリームズカムトゥループラン』という名の通り、個々の利用者の方の思い思いのことを実現していただく事が、このプランの一番の目標である。外出目的がメインだが、外出を望まない方には、他の方法で、やりたいことを実現していただく。</p> <p>単調になりやすい施設生活の中で、「自分がやりたいこと・行きたいところに行く事ができる!」という事実と、やりたいこと・行きたいところを自身で考えることが利用者の生きがいとなり、生活の質の向上に繋がるのではないかと考えた。</p>

《具体的な取り組みの内容》

- ① 一人ひとりの行きたい場所の希望調査
利用者の居室担当者が、利用者自身に行きたい場所がないかを聞き、又家族への聞き取りを行い、より利用者にとって良いものになるよう調査。
- ② 日時・家族参加の有無・費用
御家族の付き添いができるか、日時をできる範囲で考慮。
費用については、利用者の自己負担と付き添い職員にかかる費用の一部利用者負担あり。事前に家族の了承をいただく。
- ③ 勤務表の調整
付き添い職員の勤務をフリー出勤で組むようできる限り調整。
- ④ 外出の事前準備
運転手・行き先の駐車場の有無・看護師の付き添い・チケットの手配等。
- ⑤ 外出当日
ポータブル吸引機等外出グッズ(オムツ、酔い止め等)の持参。
- ⑥ 外出の実施
4件の事例紹介

《取り組みの結果と評価》

- ① 実行状況
115名の利用者中100名の方が実行した。
 - ② 希望の場所へ行くことで記憶に残り易い
ドリームズカムトゥループランの醍醐味は、利用者が好きな場所を自分で選べる事です。個々の思い出の地や、行ってみたかったところ等に外出する為、認知症のある利用者の記憶にも残り易い。昔の思い出と併せて、ドリームズカムトゥループランに行ったお話をして下さる利用者の方も多く、その後の施設生活にも良い影響をもたらした。
 - ③ 家族が思い描いていた事、したくても出来なかった事を、代行・実行
 - ④ 職員の気づき
 - ⑤ 社会との繋がり
 - ⑥ 今後の課題
より遠方の外出の希望をどこまで叶えるのか
企画書の充実(情報の共有)
- 《まとめ》
- ・利用者やご家族との間に今までにない信頼関係が築け、アプローチの幅が広がった。
 - ・利用者の生活歴等を詳しく調べることで「利用者」から「〇〇さん」として人生の重みを感じ、ケアに対する意識を変えることができた。
 - ・利用者と共にプランを作成することで、利用者がメインの活動になり、本来の「人が生きる姿」が出来てきた。

《提案と発信》

あなたの身近な利用者に「ふるさとにもう一度帰りたいなあ…」と切願されたら、あなたはどうしますか？ 閉塞的なケアから脱却して、利用者の願いを実現する為、社会に飛び出しましょう。高齢者が町中を堂々と闊歩する姿は施設職員だけでなく、家族も、地域の人も超高齢社会を考える良いきっかけになるはずです。本来の「人が生きる姿」がここにありました！

【メモ欄】追加資料 有 無

注：参加者が自由に記入できるスペースです。空欄のまま提出下さい。